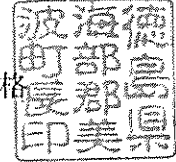


国土交通省道路局長 殿

美建第 310 号
平成19年 5月 8日

美波町長 藤井 格



中期的な計画の作成にあたってのご意見の提出について（平成19. 4. 2
国道企第114号に対する回答）

このことについて、別添のとおりです。

中期的な計画の作成に当たっての意見

美波町長 藤井 格

“真に必要な”となると、地域をどう作るべきかが重要であり、以下の4項目に重点化したい。

「安全性」

今の道路については医療面での安全が必要である。30分だったら50%の救命率があるが、旧日和佐町からだ、三次医療施設へ搬送するのに1時間はかかる。8の字ネットワークを担う四国横断自動車道（新直轄区間）、福井道路、桑野道路ができれば30分になる。

安全性を確保するには道路の選択も必要となる。最近では気象条件も変化してきており、四国は地すべり地帯が多いことから、地域を結ぶ道路が1本では非常時に通行できなくなる可能性が高い。代替性を確保しておかないと、今後発生する激しい降雨や地すべりに対して安全を確保できないと考える。

また、道路ができたところだけが満足するのではなく、他の箇所でも災害が発生した時に救助したり、避難する人を受け入れたりするためにも、道路は必要である。道路はつながっていないければ機能を発揮できない。県道等の橋梁の耐震補強も十分でない。

「効率性」

道路の情報（標識や表示）をうまく提供してもらうことによって、効率性が向上すると考える。IC間隔を短くすることや、荷さばきスペースを設置することも有効である。デマンドバスと言う話もあるが、とても家の前まではいけない。そこで幹線道路まで出てきてもらいバスに乗り換える。そのとき、幹線道路上に駐車出来るスペースがあると便利である。

また、老人が運転することも多いため、ゆずり車線を設置することにより、旅行時間の定時制が図れる。

「生産性」

大きな漁港などに対して、幹線道路からのアクセスを確保し、輸送面で強化を図ることで、生産性の向上につながる。地域が元気でないと災害時に助けられない。

「魅力」

道路ができると、若者の多くが出て行き高齢化が進むと言われているが、地域の魅力を高めることが出来ればそんなことはない。道路を利用して、魅力ある地域を目指したい。